

新座市をキャンパスに！✦（プラス）となる人づくり、街づくり

2019.3.26

Vol.18

十文字学園女子大学
地域連携推進機構
(COCセンター)

COCニュースレター



わたしたちの地域活動

5年間にわたり取り組んできた本学のCOC事業も、最終年度を迎えました。今回はCOC研究プロジェクトに関わった方に、活動を振り返ってのお話をうかがいました。

◇食物栄養学科4年生

(左から)岩井 里香子さん、岡田 有紗さん、安達 美幸さん



「地域との連携活動を通じた地場野菜の有効活用」(代表:小林三智子教授)では、新座産の野菜を使った商品開発に、学生が継続して取り組んできました。3人が挑戦した商品とは？

先輩方が開発した「にんじンドレッシング」の改良を経て、新たに「ごぼうドレッシング」の作製に取り組みました。開発中は酸味や色合い、食材にかけた時の味わいなど、何度も試行錯誤を繰り返し、周りの方の意見も取り入れながら完成させることができました。製造だけでなく、衛生面・コスト面の考慮や業者への対応も経験し、販売できる商品を作ることの難しさを実感しました。完成後は、ドレッシングを使った料理のレシピの作成も進めています。

ほかにも、大学近隣の農園で野菜の収穫を手伝ったり、学外イベントで「にんじンドレッシング」や新座産のにんじんスイーツを販売するなど、地域での活動も行いました。

このプロジェクトは、試行錯誤の楽しさや挑戦する大切さを私たちに教えてくれました。今後は管理栄養士として、この経験を献立作成などの実践面で活かしていきたいです。それ以外の場面でも、自分のやりたいことに対して、目標を立てて取り組んでいく力になっていくと思います。

◇人間発達心理学科4年生 有田 美桜さん



「地域密着型メディアによる情報発信」(代表:棚谷祐一准教授)の一環として、朝霞市のコミュニティFM局「クローバーラジオ」のレギュラー番組である「十文字プレゼンツ Campus☆Radio」を、ラジオ研究部とメディアコミュニケーション学科の学生が毎週放送しています。ラジオ研究部の有田さんは1年次から番組制作に関わり続け、部長も務めました。

ラジオ番組を自分たちで制作するにあたり、最初に担当者と話す内容を決め、台本を作りました。間の取り方や話し方の練習を重ね、タイムキーパーをしながら録音し、音楽を入れるなどの編集作業を経て、最終的に先生に内容をチェックしてもらい放送に至りました。

内容は、現在自分たちが関心のあることを話題にしたり、自作のボイスドラマを放送したほか、地域のお祭りや平林寺のことも取り上げました。新座について調べ台本を書いた経験は、新座を知るきっかけになり、就職活動での受け答えにつなげることができました。また、クローバーラジオのパーソナリティの方から話し方や時間配分のコツ等を教えていただき、勉強になりました。

入部時は機材の使い方も分からず全くの初心者でしたが、活動の中でいろいろ教えていただき、苦手意識があっても乗り越えられることを学びました。人と話すことが好きという自分の強みを活かし、自己表現ができたことも大きな経験です。



◇新座市役所 地域活動推進課 職員 H29年度卒業生 佐藤 佳奈さん

現在は市職員として、イベントの運営や都市交流関連の業務に携わる佐藤さん。学生時代は「学生と共に考える大学キャラクターの活用とその展開」(代表:星野祐子准教授)での活動をきっかけに、地域との関わりが強くなったと語ります。

大学3年生の時に“プラスちゃんくらぶ”に入り、仲間と一緒に地域のお祭りやイベントに数多く参加しました。準備・実行・振り返りのサイクルを経験する中で、イベントをより良くするためのノウハウを学び、人と接する時の社会性も身に付きました。それらは現在の仕事にも活かしています。

この活動から繋がった縁がきっかけで、4年生の時は「新座快適みらいプロジェクト」チームのメンバーに選んでいただき、市内他大学の学生や市民、事業者、市職員と、今後のイベントの在り方やオリンピック・パラリンピックに向けた課題等について意見を交わしました。また、地元のラジオ局に出演して“プラスちゃんくらぶ”の地域活動について話したこともあります。

活動を通して、本当に多くの方と関わることができたと改めて思います。在学生の皆さんにも、授業やサークルを活用して、ぜひ学外活動に参加してほしいです。楽しさを味わえるとともに、きっと新しい自分に出会えますよ。



◇+（プラス）ママ 池田 愛加さん(H17年度卒)、 荒井 友美さん(H18年度卒)、榎原 友佳さん (H20年度卒)、江利川 理恵さん(H21年度卒)

「乳幼児を子育て中の保育者が行うピア・サポートとしての子育て支援事業『+（プラス）ママの子育てサロン』開催と有効性の検討」(代表:上垣内伸子教授)にスタッフとして関わる+（プラス）ママのみなさん。本学幼児教育学科の卒業生で、全員が保育経験者かつ子育て中です。

私たちはスタッフであると同時に、サロンで一緒に遊ぶ子どもの保護者でもあります。参加者の親子の遊びをサポートしつつ、お母さんには同じ立場で寄り添って交流しています。サロンでは子どもがみな伸び伸びと楽しく過ごし、他の子どもの動きから刺激を受ける姿も見られました。また、スタッフを含めお母さん同士の顔見知りが増え、子育てに関する悩みを相談しあうこともあります。

学生さんもスタッフとして参加しており、親子の関わり合いや親に対する援助の方法を現場で学んでいるのではないのでしょうか。参加者の方も学生さんが子どもに付いていると安心するようです。

大学は自然豊かな環境が魅力で、グラウンドや食堂を使って助かっています。図書館に子どもと一緒に入れる時間があれば、地域の方が大学へ遊びに行くきっかけにもなるのではないかと思います。

地域連携シンポジウムを開催しました

地域に根差した大学を目指して ～地域連携 ここからがスタート

3月2日(土)、本学431教室で、平成30年度COC事業「地域連携シンポジウム」を開催しました。COC事業の最終年度にあたり、5年間を総括し今後の地域活動を展望する機会として、“COC事業の成果と今後の展開”をテーマに実施し、近隣の行政関係者や地域の方々、他県のCOC採択大学の教職員、本学の教職員・学生など、約80名が参加しました。

当日は、志村二三夫学長と並木傑新座市長による挨拶で開演。続く基調講演では、最初に新座市教育委員会の金子廣志教育長より、大学と地域とのWin-Winの視点から、これまでの取り組みや今度の課題をお話いただきました。次に、同じCOC採択校であり、本学と大学間連携協定を締結している園田学園女子大学の大江篤教授から、同大学の地域連携プロジェクトや、COC事業終了後の取り組みなどをご紹介いただきました。



志村学長より開会挨拶



並木市長より来賓挨拶



基調講演 I 「地(知)の拠点としての大学への期待 ～COC事業を振り返って～」
(金子教育長)



基調講演 II 「<地域>と<大学>をつなぐ経験値教育プログラム－園田学園女子大学COC事業の事例－」(大江教授)

休憩後は、本学が継続して取り組んできた研究プロジェクトのうち、4件について成果発表を行いました。研究代表の教員のほか、研究に関わった学生や地域の方も登壇し、これまでの研究成果と今後の課題を発表していただきました。

最後に綿井副学長から挨拶があり、シンポジウムは閉会しました。参加者からは「地域連携活動が多方面より実施されており、学びの多い内容だった」「5年間で培った基盤をさらに発展させ、充実した活動を活発に行い、市の隅々まで根付くことを願っている」などの感想が寄せられました。

成果発表①「子ども元気プロジェクト」 (代表: 鈴木康弘准教授)



③「ふるさとの緑と野火止用水を育むプロジェクト」 (代表: 星野敦子教授)



④「+(プラス)ママの子育てサロン」 (代表: 上垣内伸子教授)



②「産学官連携による地域の食材を使った商品の開発」 (代表: 高有里講師)



ご挨拶

COC事業の成果を活かした地域活動

地域連携推進機構 機構長代理 星野 敦子

平成26年度「地(知)の拠点整備事業」の採択から5年間、「新座市をキャンパスに！+(プラス)となる人づくり、街づくり」をテーマに、学長をリーダーとして全学体制で地域活動に取り組んでまいりました。「教育」「研究」「地域貢献」の3つの柱において、地域志向カリキュラムと学生評価システムの構築、地域志向科目を通じた学生の地域参加の実践、教員を中心に、学生、行政、地域団体などと連携した地域志向研究プロジェクトの取り組みを実施し、大いなる成果を得られたものと自負しております。

今後はCOC事業の実践と成果を活かした地域活動をさらに推進していくため、従来の「地域連携推進機構」を「地域連携推進センター」として再編し、「プロジェクト研究部門」「生涯学習・地域人材育成部門」及び「企画・広報部門」の3部門において、研究・地域貢献活動を展開していくこととなります。「プロジェクト研究部門」においては、「子育て支援」「健康長寿のまちづくり」「地域力向上」「地域福祉支援」ならびに「教養・芸術力の向上」の各分野について、COCにおいて実施され、高い成果が得られた9つのプロジェクトを継続実施することになっております。また新たに設置する「企画・広報部門」では、本学における地域活動を総括し、戦略的な推進情報発信を積極的に行うとともに、地域のニーズを受け止める窓口として、企業や行政、市民団体などと研究活動のマッチングを行うとともに、SNSの組織的な活用、YouTubeを利用した動画発信など、高校生世代や保護者の世代にもマッチした感性を活かした情報発信を推進したいと考えております。今後とも「地域になくはならない大学」として、地域貢献と人材育成に邁進してまいります。

編集
後記

これまで数々の地域活動取材させていただきました。COC事業の採択をきっかけに開始した活動、採択以前から続けておりさらに発展させた活動と、形態は様々でしたが、共通して感じたことは、「COC終了後も地域活動を継続していきたい」という想いです。本ニュースレターが今後の発展の一助になれば幸いです。ご協力いただいた方に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。